

寺内の全域が国指定史跡

浄智寺

じょうちじ



浄智寺の門前。古い石橋から趣のある石段がまっすぐ伸びている。

三世仏の中尊、釈迦如来のご尊顔。ほか二仏にくらべやや細面で、表情もシャープである。

過去・現在・未来のほとけと
笑顔の布袋尊に癒される



門前の苔むした石橋から「寶所在近」と書かれた山門、そこから長くつづく石段から楼門にかけての景観は、カメラマンや絵描きに格好のアングルを提供してくれる。

鎌倉五山の第四位の寺格にふさわしい、絵になる禅刹である。

本殿の名を曇華殿という。曇華とは3000年に一度花が咲くといわれる伝説の花・優曇華に由来し、經典には、「仏にまみえることは優曇華の花のようにめずらしい」とある。

たしかにここのご本尊は、3体の如来坐像を横並びに奉安するめずらしい構成である。向かって左から阿彌陀如来、釈迦如来、弥勒如来。これを浄智寺では、過去・現在・未来の仏としている。つまり、三世の仏とめぐり会うことのできる、きわめてまれな場というわけである。

同じようなお姿の3体と拝されるが、よく見れば、印の形がちがう。阿彌陀は、第二指が拇指に接する弥陀の定印、釈迦は右手を下にした印、弥勒は左手を下にした印である。

境内裏には鎌倉特有の「やぐら」群が残され、石仏石塔が積み重ねた歴史を偲ばせている。拝観ルート



三世仏坐像

木造、像高・阿弥陀100.3センチ(左)、釈迦95センチ(中)、弥勒98.8センチ(右)、南北朝時代。最初に釈迦像、ついで左右の二仏が造立されたと考えられている。

やぐら(洞窟)の中にたたずむ布袋尊の石像。おなかをなでると元気がもらえるという。鎌倉・江の島七福神のひとつ。

観世音菩薩立像

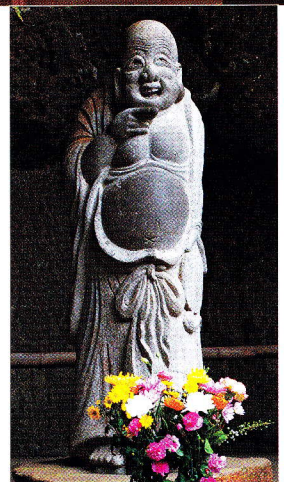
木造、像高101センチ、南北朝時代。曇華殿の裏側に、参詣者が間近に拜めるように安置されている。細身の体をやや前傾させ、左手に蕾の蓮華(未開敷蓮華)を持つ。

三世仏を安置する曇華殿(浄智寺本堂)。堂内には達磨大師像、開山上人の大休正念、第二世の南州宏海の頂相も安置。



浄智寺(臨済宗)

鎌倉市山ノ内1402 ☎0467-22-3943 ●JR北鎌倉駅より徒歩8分◎拝観情報＝拝観料一般200円(子供100円)、午前9時～16時半、仏像等の拝観は堂外より



最後に待ち受けるのが、石仏の布袋尊。「直指人心」という禅語を思い出させるような、あるいは「寶所在近」の謎かけの答えをいただいたような、なんとなく温かくほっこりとした気持ちで境内を後にできるのだ。

写真＝布川航太